

筑西市出身!

# 北澤佑子先生の 南極滞在記

みなさん、こんにちは。守谷高校教諭の北澤佑子です。南極地域観測隊の同行者として、4か月間の活動を全うし、無事に日本に戻ってきました。応援してくれた筑西市のみなさん、ありがとうございました。私の南極での体験を報告します。

## 南極までの道のり

昨年11月27日、成田空港を出発。空路オーストラリアに向かい、西岸のフリーマントル港から12月2日に南極観測船「しらせ」で、いざ南極・昭和基地へ。世界で唯一国境がない大陸の南極。そこでは、地球の未来を読み解く観測が続けられています。昭和基地は日本の南極観

測基地で、日本から南へ約1万4千km離れた地球の果て。南極海へ向かうには、「吠える40度、狂う50度、叫ぶ60度」と呼ばれる海域を通過しなければなりません。船体は大きく揺れ、荷物は床を滑り、胃は浮いた感じがして酔いとの闘いでした。12月7日、流れてくる大きな氷山を初めて見て、いよいよ南極が近づいてきた実感が湧きます。そこから景色は一



第61次南極地域観測隊同行者

きたざわ ゆうこ  
北澤 佑子 さん

国立極地研究所などが実施する「教員南極派遣プログラム」の同行者として、南極に滞在。茨城県の教員では初となる派遣。県立守谷高校教諭。関城地区木戸出身。



第61次南極地域観測隊のロゴマーク



1

みんなの幸せを願い  
共に幸せを創っていく。  
そんな「南極魂」を  
私は発信していきたい。  
—南極せんせい 北澤佑子—



2



3



5



4

1 私が運転した雪上車。ちっくんも乗りました 2 守谷高校と衛星回線をつないでの南極授業 3 XCTD 投下をさせていただきました 4 昭和基地での食事。金曜日はカレー 5 海氷上での魚釣り  
61次南極地域観測隊 北澤佑子さん 提供

## 南極・昭和基地での生活

出港してから約1か月、南極・昭和基地に到着。季節は夏。夏の南極は一日中、太陽が沈まない白夜。夜が来ません。空は常に明るいので、時計を見ないと時間がわからず、身体のリズムを整えることが大変でした。そんな中、魔法にかかったような淡いピンク色に染められた空は、心が癒されてお気に入りの時間でした。

昭和基地では、午前6時に起床して、午前7時に朝食、毎日みんなでラジオ体操と朝礼、その後各自仕事をして、午後7時ごろに夕食、全体ミーティングを行います。南極最大のミッション、南極授業。衛星回線で、南極から茨城県にライブ中継で授業を行いました。授業の前半は理科、後半は道徳と2つのテーマで実施。「ちっくん」も出演しました。南極の生物を生きたまま観察してもらいたいと考え、凍った海の上から釣りに挑戦し、20日間以上の飼育に成功しました。魚の飼育では、海が凍って氷に覆われているので、海水の確保がとても大変でした。南極で出会ったさまざまな生物の食物連鎖から、生命を育む豊かな海である南極海の姿を伝えました。ゲストティーチャーもお招きして、長期的な観測で変化を捉える重要性、観測の意義を学習しました。道徳では、南極での観測や生活を支える、「しらせ」や観測隊のみなさんとの共同・協働生活に着目。限られた人数でさまざまなことを行っていくために、協働は大切。共に生きることについて考えました。

## 南極授業

### —昭和基地からのライブ中継—

私自身の最大のミッション、南極授業。衛星回線で、南極から茨城県にライブ中継で授業を行いました。授業の前半は理科、後半は道徳と2つのテーマで実施。「ちっくん」も出演しました。南極の生物を生きたまま観察してもらいたいと考え、凍った海の上から釣りに挑戦し、20日間以上の飼育に成功しました。魚の飼育では、海が凍って氷に覆われているので、海水の確保がとても大変でした。南極で出会ったさまざまな生物の食物連鎖から、生命を育む豊かな海である南極海の姿を伝えました。ゲストティーチャーもお招きして、長期的な観測で変化を捉える重要性、観測の意義を学習しました。道徳では、南極での観測や生活を支える、「しらせ」や観測隊のみなさんとの共同・協働生活に着目。限られた人数でさまざまなことを行っていくために、協働は大切。共に生きることについて考えました。

## 「南極せんせい」からのメッセージ

南極で生きていくためには、決して他人事にはしない、他者の幸せを願い、共に幸せを創って共有していける、そんな一人一人の仲間と共に生きる素直な心が大切。その心、「南極魂」を感じました。

**入場無料 写真展を開催します**

北澤先生の南極滞在を記念し、写真展を開催します。南極で使用した観測機器などの展示も！初日と最終日には先生が来館します！

■期間 7月4日(土)～19日(日)  
9:00～19:00 ※6日・13日(月)休館

■会場 中央図書館エントランスギャラリー

南極せんせい 来館日時	4日(土) 午前9時～11時 19日(日) 午後1時～3時
----------------	----------------------------------

問 広報広聴課(本庁4階) ☎24-2172

日本にいるとき以上に、人と人とのつながりの中で生きていくことを強く実感しました。

南極から帰国した私を、守谷高校の生徒は「南極せんせい」と呼んでくれます。南極で体験して感じたこと、学んだこと、南極での観測の意義と重要性、さらに、観測に関わる人たちの情報を、多くのみなさんに発信していくことが私の任務です。私が南極で感じた「南極魂」を、生徒たちにも直に感じてもらいたい。引率教員として、将来を担う高校生を南極へ連れていくという新たな夢が生まれました。

最後に、一番支えて応援してくれた家族、特に妹に感謝したいです。